



令和3年度（第20回）「グリーン物流パートナーシップ会議」
参加者アンケート調査結果

グリーン物流パートナーシップ会議 事務局

<https://www.greenpartnership.jp/>

本アンケートは、令和3年度（第20回）「グリーン物流パートナーシップ会議」の参加者（受賞関係者、オンライン視聴者）を対象にしたWebアンケート調査の回答を集計したものです（N=27）。

Q1：参加者所属先の業種区分（主たるもの）

A1:

業種区分	回答者数(N=27)	回答割合(%)
製造業	7	25.9%
卸売業	1	3.7%
小売業	0	—
運輸業（貨物）	10	37%
運輸業（旅客）	0	—
その他物流業（3PLなど）	1	3.7%
物流子会社	2	7.4%
情報サービス業	1	3.7%
行政機関	1	3.7%
各種団体	1	3.7%
個人	0	—
その他	3	11.1%

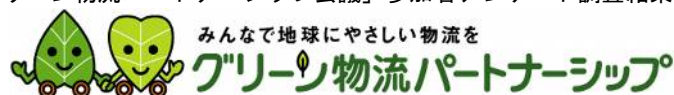
その他（主な自由記述）：海運業、サービス業、建設業

Q2：参加のきっかけ

A2:

参加のきっかけ	回答者数(N=27)	回答割合(%)
受賞者・受賞関係者	14	51.9%
グリーン物流パートナーシップ会議の ホームページ、メールマガジン	6	22.2%
主催団体（国土交通省、経済産業省、（一社）日本物流団体 連合会、（公社）日本ロジスティクスシステム協会）の ホームページ、メールマガジン等	4	14.8%
メディア（新聞、雑誌、業界紙等）	2	7.4%
その他	1	3.7%

その他（自由記述）：「物流事業者のメールマガジン」



Q3：グリーン物流の推進に際してパートナーシップを通じた取組の有無（現状）

A3:

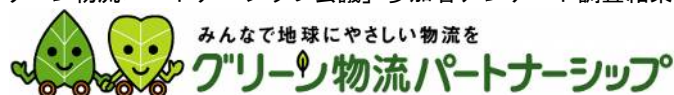
取組みの有無	回答者数 (N=27)	回答割合
有	18	66.7%
無	9	33.3%

Q4-1：現在取り組んでいるグリーン物流並びに物流の生産性向上のテーマ（複数回答可）

A4-1：

取組中のテーマ	回答者数 (N=27) ※複数回答可	回答割合 (%)
輸送ルート・輸送手段の工夫	13	48.1%
モーダルシフト	19	70.4%
共同輸配送	14	51.9%
帰り荷確保（帰り便活用）	9	33.3%
待ち時間の削減	4	14.8%
標準化（パレット、情報システムなど）	4	14.8%
機械化・自動化	6	22.2%
拠点集約	4	14.8%
取引条件（ロット、リードタイム、JIT、頻度など）の見直し	2	7.4%
ペーパーレス	5	18.5%
一貫パレチゼーション	3	11.1%
エコドライブ	4	14.8%
バース予約システム	2	7.4%
マッチングシステム	4	14.8%
環境優良車の導入	1	3.7%
貨客混載の活用	0	0%
検品レス	1	3.7%
電子タグの活用	1	3.7%
特になし	4	14.8%
その他（具体的に）	2	7.4%

その他（主な自由記述）： 「総合効率化計画認定による特定流通業務施設の建設協力」、「コンテナ積載率向上」



Q4-2：今後、取り組みたいグリーン物流並びに物流の生産性向上のテーマ（複数回答可）

A4-2：

取り組みたいテーマ	回答数 (N=27) ※複数回答可	回答割合 (%)
共同輸配送	14	51.9%
標準化（パレット、情報システムなど）	6	22.2%
輸送ルート・輸送手段の工夫	8	29.6%
モーダルシフト	9	33.3%
帰り荷確保（帰り便活用）	6	22.2%
機械化・自動化	6	22.2%
マッチングシステム	1	3.7%
待ち時間の削減	7	25.9%
一貫パレチゼーション	2	7.4%
拠点集約	1	3.7%
ペーパーレス	5	18.5%
貨客混載の活用	0	—
取引条件（ロット、リードタイム、JIT、頻度など） の見直し	4	14.8%
検品レス	6	22.2%
エコドライブ	1	3.7%
電子タグの活用	3	11.1%
環境優良車の導入	2	7.4%
バース予約システム	2	7.4%
特になし	4	14.8%
その他（具体的に）	1	3.7%

その他（主な自由記述）： 「物流企業、荷主企業への生産性の向上やグリーン物流にかかわる提案」



Q5：物流の生産性向上やグリーン物流の推進に向けて、今後、パートナーシップを希望する相手はどのようなプレイヤーですか **(択一)**。

A5：

パートナーシップを希望する相手	回答者数(N=27) ※複数回答可	回答割合
運輸事業者	6	22.2%
発荷主（調達先）	6	22.2%
着荷主（販売先）	2	7.4%
倉庫事業者	2	7.4%
同業他社	4	14.8%
行政	0	—
3PL	2	7.4%
システムベンダー	0	—
消費者	0	—
特になし	4	—
その他（具体的に）	2	3.17%

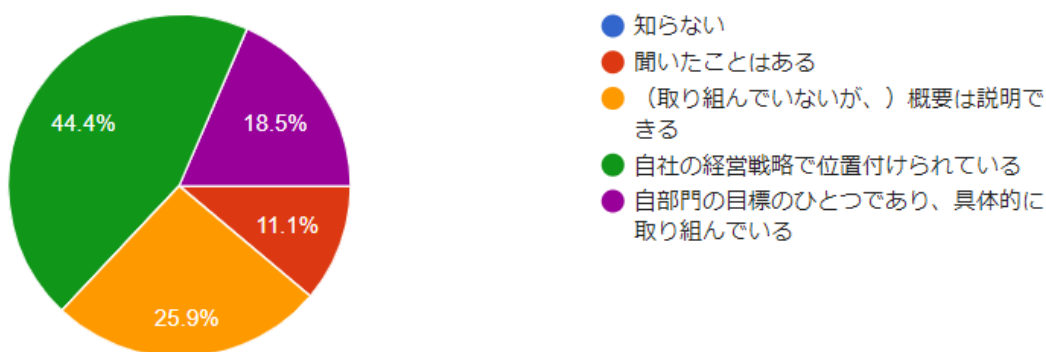
その他（主な自由記述）： 「LLP」



Q6-1：SDGs（持続可能な開発目標※）の認知度や取り組み状況

※2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載の2016年から2030年までの国際目標のこと。

A6-1：



SDGsの認知度	回答者数(N=27)	回答割合
知らない	0	0%
聞いたことはある	3	11.1%
（取り組んでいないが、）概要は説明できる	7	25.9%
自社の経営戦略で位置付けられている	12	44.4%
自部門の目標のひとつであり、具体的に取り組んでいる	5	18.5%

Q6-2：SDGsに関わる自社の具体的な取り組み（自由記述）。

A6-2：

- 貨物鉄道輸送へのモーダルシフトを推進しGOAL7、13、14、15に貢献していく。あわせてトラックドライバーの働き方GOAL8も実現していく。
- 循環型経済に貢献すべく、脱プラスチックの取り組みとしてストレッチフィルムの削減や紙ガムテープの採用を実施
- 2024年問題トラックドライバーの残業上限
- 省エネ
- 気候変動対応、廃棄物管理、水資源の保全、環境配慮製品の拡充
- 実荷主への働きかけによるモーダルシフトの推進。運航船舶の非化石化。
- 現在、既に取り組事項を仕分け、整理中の段階
- 産業・一般廃棄物の削減
- モーダルシフト、配送回数の削減
- 既に、弊社は世の中に先駆けて20年以上前からCO₂削減を目標としてのCRU（鉄道、ドレージ）を実施しております。



Q6：今後、グリーン物流の実施、グリーン物流の普及・促進に向けて、グリーン物流パートナーシップで対応して欲しい活動、提供して欲しい情報等について（主な自由回答）。

A6：

- 大手企業と中小企業の取り組み意識に大きなギャップを感じる、先ずは大手からというのはわかりませんが、中小でも「やらなきゃ」と思うような仕掛けを（私自身具体的に思い浮かびませんが）考えていただきたい。よろしくお願いいたします。
- 他社事例
- 異業種の共同輸配送の連携方法
- モーダルシフトの成功事例
- 改善事例とその効果の情報提供
- 行政にイニシアティブを取っていただき、実荷主とのマッチングの場を作っていただきたい。
- 推進に向けた補助事業、取組事例の公表
- 各社協業化の意向がある企業とその内容の集約・公表
- 荷主企業に余りにも物流に素人の人間が多すぎる点を改革する必要があると思います。

以上

当日の参加とアンケートへの回答ありがとうございました。